

1月  
2022年

156号

地域共創・未来共創の大学へ

# 広 沖縄大学 報

OKINAWA UNIVERSITY

発行

沖縄大学経営企画室

〒902-8521 沖縄県那覇市字国場555

☎ 098(832) 2910

<http://www.okinawa-u.ac.jp>



## **祝** 男子バスケットボール部 1部昇格

第28回九州大学リーグ戦2部(2021年10月9日～31日九州各地で開催)において、本学バスケットボール部が見事優勝を果たし、1部昇格を決めました。

現在のリーグ制で沖縄県勢初の1部昇格となります。男子バスケットボール部の今後の活躍にご期待下さい!!

Okidai Vision 2028

## 2022年 年頭あいさつ

**地域がキャンパス、地域のキャンパス**  
 沖縄大学は「知」と「人」の交流拠点となります

## 学長

## 盛口 満



明けまして、おめでとうございます。2022年の年頭にあたり、ご挨拶申し上げます。

今、自分の大学生生活を振り返ると、あれこれ後悔することが思い浮かびます。大学3年生の頃は、自分の将来の進路がわからなくなり、専門課程の授業にも身が入りませんでした。そんなとき、たまたまのぞきに行った共通科目の授業の先生の紹介で、有機農業をしている農家さんに出会い、はっきりした目的もなかったのですが、しばらく学校をさぼって農家の仕事を手伝うことにしました。

朝、まだ暗いうちから起き出し、エサを配合し、鶏舎に運んでニワトリたちにエサをあげ、産んである卵を拾い集めてから朝食です。昼間はその季節によって、畑仕事だったり、なんだりといろんな作業を手伝いました。とにかく体を動かしていると、悩みを忘れることが出来たのです。ところが、そうした、折に触れた農家の手伝いも1年を過ぎると、またあらたな悩みが出始めました。それは自分のやっていることが、何につながるのだろうかという悩みです。自分でも農業をしてみようかという気持ちも芽生えたものの、そうした思いはすぐにしぼみました。農家というのは大変な仕事です。一年間の作付けを自分で決め、その時期ごとに必要な仕事を自分で自分に割り振ります。小屋の修理から農業機械の操作まで、ありとあらゆる仕事をこなさなくては勤まりません。自分には農業は無理だとわかったとき、きちんと自分に向き合う必要があると感じ、そうして僕は教員への道を選び、歩き始めました。

今、振り返ると、農業の大変さを感じたことは、どんな仕事でも、同様にあることがわかります。仕事は誰かが与えてくれるものだけでなく、自分で目標や内容を決めて行う必要があることも多いからです。やりたい事を達成するためには、やりたくない、様々な事もこなしていかななくてはなりません。そして何より、自分というものを確立するには長い年月が必要だということがわかります。大学時代の感いは、農業でいえば土壌づくりのような時期だったのでしょうか。土壌という地盤があってこそ、作物は実ります。皆さんにとっても、大学生活は、豊かな土壌づくりの時間と考えるとほしいと思っています。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、緊急事態宣言が長引き、皆様の活動にも支障が感じられた一年だったかと思えます。今年は、様々な活動が思い通りに開催でき、豊かな時間を共有できる一年になることを切に願います。

## 理事長

## 佐喜真 實



明けましておめでとうございます。

年始の挨拶は明るく新年を寿ぐが常ですが、昨年は新型コロナの影響で各種行事の自粛ムードの中、様子が違いました。今年はどうでしょう。本年こそニューノーマルでなく、限りなく旧来の平穏な新春が迎えられたらと思います。

本年は、いよいよ、管理栄養学科が完成年度へ入ります。新年度で4学年が勢ぞろいし、年度明けには最初の卒業生が社会に出ます。それと共に多くの管理栄養士も誕生することでしょう。健康栄養学部のチャレンジが成功裏に成就する楽しい年度となります。

さて、沖縄大学はコロナ禍のもとでも進化を続けました。私が注目するのは本学の社会貢献の状況です。社会貢献は大学を構成する教員、職員、学生がそれぞれの立場で行っていますが、特に教員の貢献度には素晴らしいものがあります。本学教員は行政学、教育学、経営学、福祉学、栄養学などそれぞれの専門的な知見を活かして、委員長ないし委員として県、那覇市などの自治体主催の委員会に参画し、地域の発展、まちづくりに貢献しています。昨年は35名の教員が95の委員会に招聘されています。前年から見ると教員数で8名、委員会数で35増加しています。沖大には地域から必要とされている教員が多いことがわかります。大学の誇りです。

学内ではペーパーレス化も進んでおり、理事会などの主要会議は各自がパソコン端末で議事次第、資料などを見て論議する体制となっています。二年目に入ったことで、操作にも慣れ、審議に集中する体制が取れています。ペーパーレス化の一環で、年賀状による年始のご挨拶も本年から廃止しております。大学の様子などはホームページのニュース欄で、大学の今を楽しんでいただければと思います。

最後に、アネックス共創館もサークル室と体育室並びに多目的活動室として整備しました。アネックスの活用で学生活動がさらに充実するものと期待しています。

今後とも学生の夢創造・夢実現のため、沖縄を代表する私学づくりに邁進いたしたいと存じます。本年も宜しくお願い申し上げます。



## 沖縄県教員採用試験合格者

過去最多の**52名**

2021年10月15日、沖縄県教員採用試験合格者の発表があり、本学は現役学生16名、過卒学生36名、合計52名（前年比プラス14名）が難関を突破し合格を勝ち取ることができました。現役生と過卒生をあわせると過去最多の人数となります。

2020年度（令和2年度）公立学校教員採用選考試験の競争率を都道府県別に見ると、「沖縄県」が8.1倍と最も高く、今年度も例年なみの志願状況で、教員採用試験は超難関試験ともなっています。また新型コロナウイルス感染症の影響で、緊急事態宣言が長期化し、現役学生は教育実習期間中と教員採用試験が重なる学生もいましたが、これまでの学びをきちんと発揮し、今年度もがんばってくれました。

教員採用試験対策では共に頑張る仲間がいたこと、そしてたくさんのサポートがあったおかげで乗り越えることができたと思います。一次試験は長

期戦で2時間、4時間、10時間と勉強時間を増やしていきながらそれぞれが勉強しやすい環境で自分との闘いに挑んでいました。時には集中力が続かないことや、遊びたい衝動との葛藤と戦いながら過ごしていました。模試では、点数が上がって喜ぶ人もいれば、伸び悩む人もいてそれぞれが何かを感じ、そして乗り越えてきた期間だったと思います。一次試験が終わわり、二次試験の対策では一次の結果がわからない中みんな不安と期待を抱きながら毎日の対策を続けました。二次対策では一次対策とはまた違った自分との戦いでした。緊張の日々が続き、人によっては苦手なことに挑戦する日々になったと思います。その時に支えになってくれたのはやはり先生方や現役生そして一緒に対策をしてきた先輩方の存在が大きかったです。

私たちは4月から小学校教員として働きます。私は、楽しみな反面、不安に思うこともありですが、大学4年間で学んだことをしっかりと生かし、子どもたちに寄り添いそして学び続ける教師を目指し努力していきたいと思えます。

現役合格した16名だけでなく、こども文化学科12期生一人一人がそれぞれの場所で夢に向かって成長していけるよう願っています。卒業までの仲間との時間を大切に過ごしていきたいです。



人文学部  
こども文化学科  
4年次  
西野 千菜  
(具志川高校出身)

教員採用試験を振り返って

## 合格した学生から在学生への報告会も開催されました！

### 「2021年度沖縄県教員採用試験合格者体験報告会」

去る、2021年11月24日に沖縄県教員採用試験合格者体験報告会が行われました。報告会では、合格者の中から6名（小学校5名、中学校英語1名）に採用試験にむけての取り組み方を発表してもらいました。毎年、報告会を通して後輩たちへアドバイスし、来年度の採用試験にむけて本格的に勉強がスタートしていきます。



昨年度と同様、今年度もオンラインで開催された沖大祭。新型コロナウイルスの影響により、学校行事やイベント等が相次いで中止となっていくなか、今だからこそできる方法で沖大祭を開催し、イベントを通して盛り上げていけたらと今年も取り組みました。沖縄の魅力をYoutubeの配信で知ってもらふ事により、沖縄県民のみならず、県外の人達にも沖縄を「再発見」してもらえる盛沢山の企画を、実行委員を中心に準備が進められ、無事に10月31日11時30分から6時間にわたるオンライン配信の沖大祭を開催できました。

学生の活動紹介だけではなく、那覇市制100周年を記念しての企画やリアル沖大野球BAN、ORANGE RANGEさんのライブ映像配信等盛り沢山の内容で、企画にご賛同頂いた方々と共に、昨年度とはまた違った沖大祭となったかと思えます。

私自身、沖縄を再発見できたと同時に、たくさんの人と繋がることの大切さを感じた学園祭でした。今号では学園祭の取り組みを紹介します。

記事担当 経法商学科1年 末吉 葵

第62回

# 沖大祭

ONLINE FES 2021



実行委員メンバーで配信前に

## 沖大フィールドワーク

那覇市市制100周年を記念して、本学同窓生である那覇市 知念覚副市長との対談を行いました。対談を皮切りに、【沖大周辺】① 琉球史からみる那覇地区巡り② 壺屋やちむん通りとまちづくり【本土復帰50年と平和について】③ ひめゆり学徒隊の足跡をたどる④ 平和の礎と沖縄戦体験者の声【沖縄の自然環境と観光】⑤ やんばるの森を知る（世界自然遺産と野生生物保護センター）⑥ GAKUSEI CAFÉの企画を進め取材活動を行いました。

沖大フィールドワークでは、座学だけでは学びきれない『生の学び』から、沖縄大学そして沖縄の魅力を学び、発信することができました。ここでの学びや気づきから、自分でさらにやりたいことがみつかった学生もいます。「知っているようで知らない沖縄」はまだまだまだたくさんあります。今後も沖大祭等でこの魅力を伝えていけたらと思います。



## 沖大にユリを植えようプロジェクト!

沖縄大学を花いっぱいキャンパスにしたいと昨年度からユリの植え付けを行ってきた「ユリプロジェクト」。昨年度は50株を植え付け、2021年5月から6月にかけて200以上の花を咲かせることができました。緑化だけでなく、学生の他学科他学年との交流の機会でもあるプロジェクトとして実施し、昨年度の参加者はその後オープンキャンパスや大学祭2021の運営に携わるなど活動の幅を広げています。今年度は株数を増やし、なんと100名以上の方々が参加し植え付けを行うことができました。今年の5月から6月にかけての開花の時期が楽しみです。植え付け場所を通る際はユリの成長を見守っていただくと嬉しく思います。



リアル

## 沖大野球BAN

野球系 YouTuber である弾丸ライナースさんをゲストにお招きし、硬式野球部と軟式野球部との三つ巴の闘いでのリアル沖大野球 BAN の企画が行われました。配信だからこそ実現できた夢の対決を盛りあげたいと、実行委員が手作りで野球盤のように会場を設置し、無事開催する事ができました。



## 沖繩大学 科学教室

県内で活動しているアポロサイエンス科学実験教室のセイタ先生をお招きし、盛口満学長と沖大生による科学教室が行われました。こども文化学科と管理栄養学科の学生たちが講義で学んだ知識を披露するとともに、セイタ先生の解説も加わり、科学の不思議や生き物の魅力について触れる機会になりました。また他学科の学生との交流の場にもなり互いの学科の学びについて知る良い機会となりました。



### 沖大祭を終えて

沖大祭実行委員長補佐・福祉文化学科4年（読谷高校出身）橋口 風伍（右下掲載写真前列右端）

今年度は補佐として実行委員会に残留をしました。今回はより多くの学生に参加してほしい、対面での参加機会に乏しかった運動系部・サークルにも参加してほしい、先生方にも参加していただきたい、そんな手作りの大学祭を計画し実施してまいりました。ほとんどの企画をYouTubeにてアーカイブすることもでき、昨年度の課題を大きく改善できたのではないかと思います。さらに1年生の参加が多かったことはとてもうれしいことです。そしてユリプロジェクトに今年度は100名以上の参加があったことがなによりうれしく感じました。2022年の5月から6月にかけては1000以上の花が学内に咲くこととなるでしょう。

昨年度寄稿させていただいた私の文章を振り返ると、『つながりをつくり、キッカケとする、スタートの年』実行委員長として私はこの種をどれだけまくことができるのかが使命でありました。これは達成できたのではないかと自負しています。昨年度、実行委員をしてくれたメンバーの多くは学科や団体での活動に尽力しつつあります。実行委員会ですべて主体的に活動して、自分の通いたい大学にする/大学生活を充実させるそれが身についたのであればとてもうれしく感じています。沖縄大学には沖大祭実行委員会だけではない活動の場がたくさんあります。ゼミ、研究、ボランティア、サークル、学科、独自の団体等々。沖縄大学全体の学生や団体もコロナ禍において再起をかけております。今後も活躍にご期待ください！

最後に、この度の第62回沖大祭にご協力いただいた沖大生の皆さん、教職員の皆様、撮影にご協力いただいた施設関係の皆様、ご協賛をいただいた企業の皆様、今年度もご協力いただきまことにありがとうございました。これからも沖縄大学と沖大生をよろしくお願いたします。

### 沖大祭を振り返って

沖大祭実行委員長・経法商学科2年（読谷高校出身）石川 晴日（写真前列中央）

第62回沖大祭については、まず、昨年度のようにオンラインで行うのか、対面式で行うのかという話し合いから始まりました。対面式を計画した際に、コロナウイルスの影響を受け中止になってしまうよりも、始めから昨年度と同じようにオンラインを選択し、確実に開催できる方が良いと考え、今年度もオンライン沖大祭という形をとりました。

手探りで行っていた昨年度よりも、「更に質の良いものにしよう！」とスタートした沖大祭企画。先生方にも参加いただき、沖縄の歴史・文化・自然について学ぶフィールドワークを行い、各学科の教員がどのような研究をしているのかを知る機会を作ることができました。また、オンラインである利点を生かし、アポロサイエンスのセイタ先生やYouTuberの弾丸ライナーズさん等多くのゲストとコラボした企画には、学科を越えての交流や対面式ではなかなか実現することのできなかったスポーツ系の部活生にも企画に参加してもらうことができました。さらにORANGE RANGEさんのLIVE映像配信といったものもオンラインならではのものとなりました。

多くの方々の協力を得て実現することができた第62回沖大祭。コロナ禍ということで、人数も最小限に抑え活動を行ってきました。無事に開催できて私の自信にもつながりました。来年度は、コロナウイルスの影響が収まり、対面での活動ができ、多くの学生や地域の皆様に参加できるような対面の沖大祭ができることを願っています。



沖大祭の映像は公式YouTubeにてアーカイブ公開中ですので是非ご覧ください。（ORANGERANGEさんの配信を除く）

## ◆ News &amp; Topics ◆ (2021年8月~12月)

10/20 ◆千葉県立安房高等学校との  
連携教育に関して調印

千葉県館山市にある安房高等学校は今年創立120周年を迎える歴史ある公立高校です。2014年度からは将来教員を目指す生徒が専門的に学べる「教員基礎

コース」を設置して『学び続ける教員の端緒を開く』をコンセプトにした充実したカリキュラムで生徒への学びを提供しています。これまでは近隣の大学に協力を得て連携事業を行ってきたということですが、新型コロナウイルスの影響で、リモート学習が多く取り入れられる中で、発想を変えて、地理的な壁をこえて遠くの間所であっても学びの場を開拓できるのではないかとということから、今回本学との連携教育を実施する運びとなりました。

10/21 ◆日本語教員養成課程  
修了証書授与式 開催

日本語教員養成課程修了証書授与式が開催され、国際コミュニケーション学科劉剛学科長より、修了生に修了証書が手渡されました。

毎年、国際コミュニケーション学科の学生の履修が多い日本語教員養成課程ですが、今年度はこども文化学科の学生や大学院生の受講があり、例年より多い13名の学生が課程を修了しました。

10/19 ◆沖縄県障がい者スポーツ協会との  
包括連携協力に関する協定書調印式

地域共創の理念と学生の学習機会の充実を両輪で進めていく観点から、沖縄県障がい者スポーツ協会と包括連携協定を締結する運びとなりました。包括

的な連携のもと、協働で事業を推進し、障がい者スポーツに関わる人材育成・交流や調査研究などにより得られた成果を地域社会に還元・寄与していきたいと考えています。

沖縄県下では、沖大が唯一「中級障がい者スポーツ指導員」資格が取得でき、本学福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻では、2020年度より沖縄県障がい者スポーツ協会と連携を深め、障がい者スポーツ指導員養成カリキュラムの強化を進めています。

## 8/11 ◆中山ゼミ FC 琉球施策発表会



健康スポーツ福祉専攻の中山ゼミで、プロサッカーチームFC琉球のプロモーション施策を提案するプレゼン大会が行われました。琉球フットボールクラブより友利貴様、平良開人様にお越しいただき、サッカー場に女性の観客を増やすための施策や、SNSを駆使したプロモーション施策など、学生ならではの視点から多様な提案がなされ、優秀賞には下記2つの提案が選ばれました。

- ・嘉陽晴紀さん(健スポ4年)「SNSの魅力であなたもFC琉球のト・リ・コ！」(オリジナルのアパレルブランドを展開し、SNS限定サービスと連動させる提案)
- ・西村康平さん(健スポ4年)「応援を力に ~応援でFC琉球を盛り上げよう~」(コロナ禍や初めての来場者でも応援に参加しやすくなる新グッズの提案)

中山ゼミでは昨年度から、FC琉球の観客動員数増加へ向けた大学生へのアンケート調査などに取り組んできており、今回のプレゼン大会はその集大成となりました。

## 9/17 ◆2021年度9月卒業式が開催



沖縄大学9月卒業式を開催。学部生12人、大学院生2人、合わせて14人が卒業を迎え、盛口満学長より出席者ひとりひとりに卒業証書が手渡されました。また式では盛口学長より門出を祝う言葉が卒業生に贈られました。

## 9/25 ◆第578回土曜教養講座



2021年9月25日、第578回土曜教養講座「大切な人を最期に看取ること - 終末期ケアを考える」がzoomウェビナーにて開催されました。

登壇者は、飛驒千光寺住職/大下大圓氏、サバイバーナースの会「びあナース」代表・看護師/上原弘美氏、中頭病院勤務・緩和ケア認定看護師/金城ユカリ氏、司会は本学副学長・医師/山代寛先生が務めました。

また10月30日「第579回土曜教養講座「共生社会をめざして コロナ禍における外国人のための法政策」がzoomウェビナーにて開催されました。

登壇者は、相模女子大学社会マネジメント学科准教授・東ゼン労組執行委員長の奥貫妃文氏、暁法律事務所・代表弁護士の指宿昭一氏、名城大学大学院言語文化研究科修士課程修了・日越翻訳家のグエン・ド・アン・ニエン氏、本学経法商学部准教授の岩垣真人、司会は本学経法商学部教授の春田吉備彦先生が務めました。

◆ News & Topics ◆

**12/10** ◆整備完成セレモニーを開催  
『アネックス共創館 3階4階』



整備をすすめていたアネックス共創館の工事が終了し、完成セレモニーが開催されました。

完成セレモニーには佐喜真實理事長をはじめ、盛口満学長が参加してテープカットが行われました。今回の整備では、4階のホールの改修工事のほか、3階にはトレーニングルーム1室、運動系サークル部室が11室、倉庫やトイレ等の新設及び改修が行われました。施設は、4月より運動系サークルの練習や講義での利用を予定しています。

◆『沖大小中学校』こども文化学科 13 ゼミが  
学童を訪問して授業！（10月～12月）



毎年学園祭期間に学内で開校している『沖大小中学校』。新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度からは、学童に学生たちが訪問して、こどもたちとの交流を行っています。『沖大小中学校』…近隣の小中学生を招き、学生が自分たちで作った授業を行うイベントです。

社会の授業として、地域の特産品を知る授業や、図工の授業で「マーブリング」という絵画的技法を使う授業等、各ゼミが学校の授業をイメージしながらアレンジしたオリジナル授業が行われました。いつもと違った学童の時間に、子どもたちもとても楽しそうな様子でした。

**部・サークルの活躍！**

2021年7月～12月の期間に大会で好成績を修めた部・サークルを紹介します

**男子  
バスケットボール部**

第28回全九州大学バスケットボールリーグ戦2部において、見事優勝を果たし、1部昇格を決めました。



11月19日学長表敬

**水球部**

「部結成から3年、九州大会初出場で見事3位！」



本学水球部が7月17日に開催された第97回日本学生選手権九州予選大会で、3位に入賞しました。

熊本で開催された大会は、水球部にとっては初出場となる大会でした。1回戦で優勝した西九州大に接戦の末、敗れはしたものの、3位決定戦に回り、熊本大学を14対4で破り勝利を収めました。残念ながら全国大会への出場は果たせませんでしたが部結成から3年、コロナ禍で活動ができない期間も長かったなかでの好成績に今後の期待が高まります。

州大に接戦の末、敗れはしたものの、3位決定戦に回り、熊本大学を14対4で破り勝利を収めました。残念ながら全国大会への出場は果たせませんでしたが部結成から3年、コロナ禍で活動ができない期間も長かったなかでの好成績に今後の期待が高まります。

**陸上競技部**

九州大会で上位入賞



8月に行われた第91回九州学生陸上競技対抗選手権大会、9月に行われた第49回九州学生陸上競技選手権大会、10月に行われた第6回九州学生陸上競技新人選手権大会で好成績を修め、結果を更新し続けている陸上部。11月2日に学長表敬を行い、安里良也主将（福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻3年次）は日頃の大学関係者からの応援やサポートへの御礼を述べ、次年度へ向けてチーム一丸となりさらに頑張っていきたいと抱負が語られました。

- 第91回九州学生陸上競技対抗選手権大会  
女子4×100mR3位52.71
- 第49回九州学生陸上競技選手権大会  
男子1500m2位3:55.95安里良也(健スポ3年)  
女子1500m2位5:02.12黒澤秀香(経法商3年)
- 第6回九州学生陸上競技新人選手権大会  
女子100mH2位14.50阿波根朱里(管理栄養3年)

**硬式野球部**

松堂秩己さん

「四国アイランドリーグplus特別合格選手」に!



沖縄大学硬式野球部の松堂秩己(福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻4年)内野手が四国アイランドリーグplus加盟4球団の特別合格選手(球団推薦選手)として10月30日に発表を受けました。今後、高知ファイティングドッグス球団と入団交渉を行います。

本学では今年度、2選手が徳島インディゴソックス球団に入団し、2年連続での快挙となります。

## 2021年度冠奨学金授与式



2021年度冠奨学金授与式が、9月17日、10月8日、10月12日の日程で開催されました。昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況により授与式を行うことが出来ませんでした。今年度は、感染対策を講じながら審附募集活動を行い、授与式も日程と人数を3回に分けて開催することができました。

授与式には、奨学金を頂いた企業10社を招き、23名の学生一人一人に企業の方から奨学生証書が授与されました。学生代表としてお礼のあいさつをした経法商

学科4年次の源河優太さんは、コロナによって経済状況が悪化し学生生活に不安を抱えていたが、奨学金によって経済的にも精神的にもとても安心できたことからの感謝を述べました。

「冠奨学金授与式は、奨学金で支援する側の企業と支援を受ける側の学生が直接会うことができる貴重な場であり、奨学生に選ばれた学生たちは、それぞれ、感謝の思いと共に学生生活の様子やこれからの目標などを伝えていました。」



## 長寿県復活を目指して⑥

### されどウォーキング

健康栄養学部

管理栄養学科 准教授 下地 みさ子



運動をしていますが？と聞かれると、スポーツをしているわけでもないし、ジムに通っているわけでもありません。運動習慣がないことで自信をなくしてしまうことがあります。何かスポーツを始めようかと思いつくこともしばしばですが、上手にできない自分の姿が頭をよぎり、恥ずかしいからやめておこうという考えに落ち着いてしまいます。「運動習慣があります」と自信をもって答えたいものですよね。

十数年来の友人からウォーキングに誘われていますが、スポーツウェアを着ることや買い揃えることに抵抗があって、一緒に歩いたことはありません。私がウォーキングの効果を実感したのは数年前、転職してしばらく経った頃でした。ふと乗ってみた体重計の数字が目飛び込んできた瞬間は、「職場環境が変化したことに伴うストレスだわ」と自分に理由付けをしました。しかし栄養学を学んできた私にとって、エネルギー摂取量とエネルギー消費量の収支アンバランスについて知らないフリのすることは自ら神隠しに遭いに行くようなもので、体重計から降りたときには原因が歩行量の減少だということとを理解していました。転職によってモノレール通勤から家用車へ変わったのですが、モノレールですと自宅から発車

駅までの十三分に加えて着駅から職場までの五分間は仕事へ向かう人の波に乗って毎日早歩き競争。帰宅時は夕風を感じながら三十分ほど歩く日もあって、当時は適正体重でした。転職してもデスクワークは相変わらずでしたから、歩行量が減ったことで体重が増えたのです。それからは、体重を戻すため日常生活において活動量を増やすよう心がけています。例えば、テレビを見る時は長時間座ったままではなく洗濯物を干しながらなど、ジツとしている時間を減らしています。また、本格的なウォーキングではありませんが目的を決めて無理のない距離を普段着で歩いています。休日には車で遠出して、車から降りてぶらぶら歩くなど気軽にウォーキングを楽しんでいます。

運動・スポーツが苦手な抵抗のある方も、自分だけの方法を見つけて気軽に日常生活で身体活動を増やすことができます。と思います。



## 研 究 の ひ ろ ば

## コーポレート・ガバナンスにおけるソフト・ロー規則の在り方

経法商学部経法商学科の谷口友一と言います。商法および会社法を専攻しています。研究テーマは、証券取引所に株式を上場するような大規模な株式会社の経営管理機構（具体的には、取締役会、代表取締役、監査役など）に対する規制の在り方について、主にイギリスの制度を比較対象に検討を加えております。

わが国では、これまで主に会社法などの制定法（最近では「ハード・ロー」と呼んだりします）により、株式会社の経営管理機構に対する実体的な規制（具体的には、取締役会の員数や内部委員会の構成、監査役会における社外監査役の割合などのルール）がなされてきました。他方で、イギリスにおいては、1990年代初頭にかけてのいくつかの有名な企業不祥事を契機として、株式会社の経営管理機構に対する実体的な規制は、会社法などのハード・ローのみならず、証券取引所の上場規則のような「ソフト・ロー」と呼ばれる規制方式も重要な役割を担うようになりました。

ソフト・ローによる規制方式は、その後、イギリスだけでなく、フランスやドイツなどのEU（欧州連合）加盟国を中心に幅広く導入され、さらには世界的にも普及するこ

とになりました。また、わが国においても、2015年に金融庁と東京証券取引所が共同で策定した「コーポレートガバナンス・コード」は、まさにソフト・ローによる実体的な規制方式と考えられています。

私は、株式会社の経営管理機構に対するソフト・ローによる規制方式の世界的きっかけとなったイギリスの制度について、その実体的な側面とそれを実現するためのエンフォースメントの両面について研究を続けているところです。とりわけ、ソフト・ローによる実体的な規制はそれを会社が遵守しない場合には、ハード・ローのように罰則がない（つまり、国家による制裁がない）、あるいは、性質上あまり強い制裁ができないため、不遵守の会社に対してどのような手段が採れるのかをイギリスやEUでの議論を中心に現在検討を加えているところです。

経法商学部 経法商学科 講師

谷口 友一



健康栄養学部 管理栄養学科 講師

喜屋武 ゆりか

管理栄養学科では、4年生から卒業研究に向けた専門的なゼミナール（以下、ゼミ）が始まります。2019年に新設した本学科は1～3年生が学んでおり、ゼミでは卒業研究につながるようなアカデミックスキルを学んでいます。具体的なプロセスとしては、自らテーマを設定し、学術論文やデータを基に自分の主張を支える根拠を示しながら、レポートやプレゼンテーションにまとめ、発表します。発表では、他の学生と質疑応答やディスカッションを通して考えを深めます。

豊かな創造性・独創性を磨くことをモットーとする私のゼミでは、これまでに、1年生のゼミにおいて「ラーメンを健康的に食べる方法」、「鹿児島黒豚とアゲーの比較」、「キャラクター弁当の栄養、衛生的課題と食育の可能性」をテーマとしてプレゼンするなどユニークな発表がありました。2年生になると「新しい管理栄養士の創造」をテーマに、社会的ニーズを論証しながらグループディスカッションをしています。「芸能事務所所属の管理栄養士（アイドルの体型・健康管理）」や「塾通いの子供向け配食サービス」などの提案があり、管理栄養士の新たな社会的役割を考えるきっかけとなりました。2～3年生にかけては、

## わがゼミナール

研究のことも  
楽しいことも。

研究のいろはを学び、研究計画の作成に挑戦します。研究の背景や目的を考える上で大切にすべきこと、調査の対象や方法、期待される結果まで具体的に計画します。

このようなアカデミックな学びはさることながら、ゼミでは、思い出に残る体験活動や豊かな人間関係作りも大切にしています。大学の空き地を開拓して野菜を育てたり、食品ロス対策のお店に見学へ行ったり、琉球料理を食べに行ったりしました。スポーツ大会をしたり、先輩後輩で交流したりと楽しい時間もあります。

学生には変化の激しい時代を心豊かに生き、新しい可能性を生み出してほしいと思っています。ゼミの学びがその小さなきっかけになってくれたら本望です。



# 沖大の魅力に迫る 沖大散策 vol.7

沖縄大学にある貴重なモノやアート作品を紹介する企画『沖大散策』、今回は本学本館3階応接室に飾られている「琉球国之図(レプリカ)」についてご紹介します。



この地図は、本学創設者の嘉数昇先生のご子息、嘉数昇明後援会名誉会長からご寄贈いただきました。嘉数名誉会長が琉球王国時代より伝わる尚家ゆかりの遺産を管理する尚財団の理事長(故小川武氏)から贈られたものです。

前回に引き続き、経法商学科4年次の新田和馬さんに協力いただき、「琉球国之図」や琉球王国時代に作成された地図について紹介してもらいます。

## 沖縄大学にある「琉球国之図」のレプリカについて

本学の応接室には、琉球王国時代に作成された地図の一つである「琉球国之図」のレプリカが飾られています(写真1)。地図には、現在の地図とほとんど変わらないほど精巧に沖縄島と周辺離島が描かれており、間切(現在の市町村に相当する地域)ごとに、赤・青・緑・黄・桃・紫の6色に色分けされていて、鮮やかな配色が特徴です。レプリカの大きさは46×92.5センチメートルで、地図の隙間を埋め尽くすほどびっしりと文字情報が書かれています。朱書きの部分には、各間切の石高が明記されています。石高とは、米を基準に土地の生産高を示したもので、琉球では1611年の慶長検地によって石高制が始まりました。墨書の部分には、湊や入り江の深さ、風向きによる入港方向などの情報が記されています。地図の左上に朱書きで「嘉慶元年丙辰九月九日」とあることから、原版の「琉球国之図」は1796年に作成されたことが分かります。

## もうひとつの「琉球国之図」

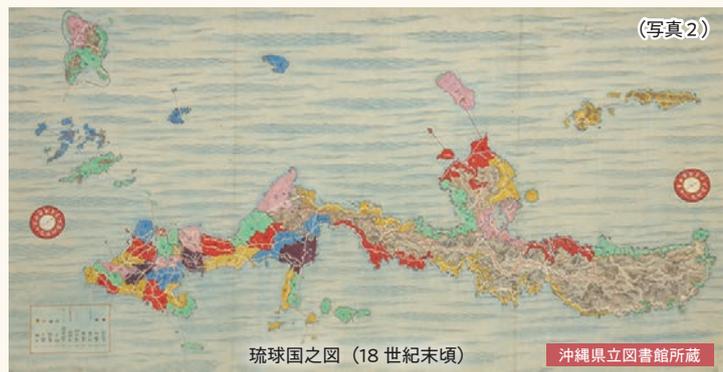
尚財団が所有する「琉球国之図」とよく似ている地図に、沖縄県立図書館が所蔵する「琉球国之図」(旧資料名:薩摩藩調製琉球図)があります(写真2)。大きさは47×85.3センチメートルで、本学のレプリカとほぼ同じくらいの大きさです。こちらも間切ごとに6色で色分けされています。元々は、東恩納寛惇(1882-1963)が所有していたのですが、その入手経路は不明です。この県立図書館所蔵の「琉球国之図」は、複数の「間切図」(写真3)を縮小編集して完成させたものだと言われています。「間切図」には間切内部の村々や道筋が詳細に描かれており、県立図書館所蔵の「琉球国之図」とともに国の重要文化財に指定されています。

これらの地図の作成には、近世琉球の礎を築いた政治家・蔡温が行った乾隆検地という国家プロジェクトが関係しています。1737年に乾隆検地は実施されましたが、その技術は1719年に琉球を訪れた中国人の測量官からもたらされました。清朝の測量技術は、当時世界最先端を誇っていたフランスの三角点網測量によるもので、それが間接的に琉球にも伝わってきたのです。日本では、地図といえば伊能忠敬が有名ですが、彼らが全国測量に着手する1800年よりさらに63年も早く、琉球は中国を介して習得したフランスの測量技術によって島々を測量していたのです。

その測量技法を記した『量地方式集』(尚家文書/那覇市歴史博物館所蔵)には、「唐針」(羅針盤)や「針方角之割」(分度器)などの測量道具が記されており、これらの道具を用いて三角形を描き出し、測量を行ったことが分かります。測量の際には、現在の数学でも使用される「円周率」や「ピタゴラスの定理(三平方の定理)」を用いていることから、その技術が近代的であることが窺えます。そして、この『量地方式集』を著した高原景宅こそが、「琉球国之図」を作成した人物だとされています。「琉球国之図」は、当時の先端技術の粋を集め、先人たちの根気強い努力によって作成された、まさに「叡智の結晶」なのです。

## 実物を見て思うこと

今回、本稿を執筆するにあたって、沖縄県立博物館・美術館にて実物の「琉球国之図」と「間切図」を特別に見せて頂きました。実物を見ると、両方とも息をのむ美しさがあり、つい時間を忘れて見入ってしまいました。地図の精巧さには目を見張るものがあり、琉球人の測量技術と根気強さには大変感動させられ



琉球国之図 (18世紀末頃)

沖縄県立図書館所蔵

間切図（首里・泊・久米・那覇・南風原間切・真和志間切・小禄間切・豊見城間切）

(写真3)

沖縄県立博物館・美術館所蔵



ました。彼らの制作した地図を見ていると、「物事を追求する姿勢」が感じられ、私の抱いていた「琉球人はテーゲー」というイメージは瞬間に消え去りました。

また、彼らの偉大さに感心する一方で、地図に対する様々な疑問も浮かんできました。最も疑問に感じた点は「間切ごとに色分けされている理由」で、彼らが一体何のために間切を6色に色分けしたのかと不思議に思いました。単純に間切の境界を明確にするために色分けしたと考えるならば、首里や久米村を含む黄色の地域が13地域もあるため、黄色から先に色付けし、その次に那覇を含む赤色の9地域、緑色の9地域、泊村を含む桃色の8地域、青色の6地域、そして最後に3地域しかない紫色の順に色付けしたのではないのでしょうか。黄色は、王族のみが着用を許された「チールジー」（黄色の紅型の衣装）に使用される色で、黄金色とも呼ばれた特別な色でもあります。琉球でも国王の権力の象徴の色として、祭祀儀礼などでも使用されていました。そのため、あえて首里を黄色にしたと思われるかもしれませんが、真相は謎のままです。いずれせよ、この「琉球国之図」は、鮮やかな色彩によって「美しさ」と「見やすさ」が両立されている素晴らしい地図に変わりはありません。

## 「琉球国之図」と「間切図」の現在

冒頭でも述べたように、「琉球国之図」は尚財団と県立図書館に所蔵されている大変貴重な史料です。また、「間切図」は元々25点ほど存在していたそうですが、現在は7点しか残されていません（沖縄県立博物館・美術館所蔵）。これらは琉米歴史研究会の尽力によって米国から返還されましたが、残りは行方不明となっています。このような状況にも拘わらず、本学には貴重なレプリカが飾られているので、みなさんご覧になってはいかがでしょうか。きっと先人たちの偉大さを感じるとともに、「彼らに負けないように頑張らなくては」と奮起させられることでしょう。彼らの功績に酔いしれるだけでなく、私たちがいつか彼らを超えるような「新たな叡智の結晶」を作り上げていきたいですね。



左：新田和馬さん、右：前田舟子先生

参考文献 一般社団法人沖縄しまて協会『琉球の築土構木—土木・技術からみた琉球王国—』新星出版株式会社、2016年。  
沖縄県教育庁文化財史料編集班編『沖縄県史 図説編 前近代』沖縄県教育委員会、2019年。

## 「琉球国之図」の間切・島ごとの色わけ

※北から赤・青・緑・黄・桃・紫の順で分別。 ※沖縄島の次に周辺離島を分別。 ※白は塩垣係（塩田など）。

色	間切または島名	備考
赤	大宜見間切	
赤	本部間切	
赤	金武間切	
赤	越來間切	
赤	宜野湾間切	
赤	那覇	町方
赤	豊見城間切	
赤	玉城間切	
赤	摩文仁間切	
青	美里間切	
青	大里間切	
青	小禄間切	
青	粟国島	離島

色	間切または島名	備考
青	渡名喜島	離島
青	座間味間切	離島
緑	国頭間切	
緑	名護間切	
緑	与那城間切	
緑	北谷間切	
緑	真和志間切	
緑	知念間切	
緑	真壁間切	
緑	渡嘉敷間切	離島
緑	久米仲里間切	離島
黄	久志間切	
黄	今帰仁間切	

色	間切または島名	備考
黄	恩名間切	
黄	勝連間切	
黄	中城間切	
黄	首里	王都、町方
黄	久米村	町方
黄	佐敷間切	
黄	兼城間切	
黄	具志頭間切	
黄	喜屋武間切	
黄	嶋（伊平屋島）	離島
黄	伊是名島	離島
桃	羽地間切	
桃	読谷山間切	

色	間切または島名	備考
桃	浦添間切	
桃	泊村	町方
桃	南風原間切	
桃	高嶺間切	
桃	伊江島	離島
桃	久米具志川間切	離島
紫	具志川間切	
紫	西原間切	
紫	東風平間切	
白	塩干場	中城間切内
白	泊塩浜	泊村内
白	那覇塩浜	泊村内
白	塩干場	豊見城間切内

全部で52地域（白色の4地域を除くと48地域）

■赤9地区→那覇含む、離島0地区 ■青6地区→離島3地区 ■緑9地区→離島2地区 ■黄13地区→首里・久米村含む、離島2地区 ■桃8地区→泊村含む、桃色離島2地区 ■紫3地区→圧倒的数の少なさ、離島0地区

卒業生の活躍を紹介!

# あの人はいま

今回は2009年3月に卒業して、現在与那原東小学校で先生をしている武藤航一さんをご紹介します。新潟県出身の武藤さんが、沖縄大学に進学を決めた大学時代のことや、現在のお仕事についてお話を伺いました。

2008年  
2月の  
広報誌

当時の広報誌の表紙に三線部に所属していた武藤さんの姿がありました  
(写真左から5番目)

第3回 沖縄大学三線部芸能祭

## Q 大学卒業後、教員になるまでに

大学では社会科(中学校・高等学校)の教員免許を取得し卒業しましたが、沖縄県の中学校・社会の教員免許はとて狭き門で、年に2人しか合格しない倍率の高さのなかで、自分の力では無理ではないかと諦め、卒業後は県職員(非常勤)や、小学校の事務などを経験して、その後臨時教諭として馬天小学校へ勤務しました。

大学で出会った人たちの影響が大きかったこともあり、中学校がダメなら小学校の先生になろうと決めて、それならと資格取得のために通信教育で単位を取得し、資格を1年で得て、すぐに受験した教員採用試験でどうにか合格することができました。初任で翔南小学校(南風原)、そして中原小学校(うるま市)、そして現在の与那原東小学校で9年目の教員生活を迎えています。



## Q 教員という仕事について

児童に「来年も先生のクラスになりたい」と言われると、とても嬉しいですね。しかしながら、日々いろいろなことがあるなかで、課題や問題をきちんとみて、対応できるようにと努めています。学校の中だけではなく、民間の研究会(生活指導、算数・数学)に所属して、学び続ける姿勢は常に心掛けています。

『自分のことを話してみようかな、と思える他者になること。いろんな人がいるし、居ていいと思える空間を共につくること』をモットーに毎日努めています。

## Q これからの目標について

ゲッチョ先生や那須先生のような授業をいつもしたい!というのが目標です。那須先生の名言「授業はいつもライブですから!同じライブはで

きないんですよ」という言葉がいつも頭をよぎります。

昨年10月に行われた国政選挙の投票率が低いのは、小学校、中学校での教育に課題があると感じているので、学校スタンダード等、いまの世の中で小学校教育がどうあるべきかなど課題をきちんととらえて勤めていきたいとは思っています。

もっとこの日本が、人権のことを大事にし、多様な人を受け入れ、ふつうの枠組みを広げていけるような世の中になればいいなと願っています。いろんな人がいていいという広い感覚を持ち、子供たちにも向き合っていきたいです。

## Q 後輩へメッセージ

広い視野で多くの人と出会ってほしいなと思います。教員を目指したいという方には、研究会などにも多く参加してほしいですね。



2005年4月:沖縄大学法経学部入学

2009年3月:卒業後、県庁の臨時職員、  
小学校臨時教員を経験

2013年4月:翔南小学校(南風原町)

2016年4月:中原小学校(うるま市)

2021年4月:与那原東小学校(与那原町)

## Q 大学進学、なぜ沖縄に?

新潟出身なんですけど、寒い田舎だなと思っていたので外に出たくて、高校時代は、東京の大学を目標にしていました。そこで高校3年になり、東京に住んでいた姉のところではばらく生活してみたんですが、東京は肌にあいませんでした。姉は和光大学に通っていて、和光大学の国内派遣留学提携校である沖縄大学を姉に勧められ、あまり深く考えずに沖縄への進学を決めました。高校までサッカー部に所属していたので、中学の先生になってサッカー部の顧問もいかなと、入学してすぐに教職を志しましたが、まだその時は漠然とした夢でした。

そんなふうにとスタートした沖縄大学での大学生活は気候があっていたのもありますが、ゲッ